

一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会 2011年度事業報告

日本リハビリテーション工学協会 2011年度の経過

2011年度は、東日本大震災からの復興元年ではありましたが、福島第一原子力発電所のメルトダウンに起因する、被災地からの産品など放射性物質による汚染の可能性が疑われる物質の受け入れが各地で拒絶され、瓦礫の処分も遅々として進まない状況です。また、電力供給不足の結果、照度の低下やエレベーターなどの運転停止、計画停電の実施などにより、多くの人が多大な影響を被られたことと思ひ、お見舞い申し上げます。

さて、本協会は、2010年秋に一般社団法人として登記を行い、2011年度から主として対外的な業務を一般社団法人として、また会員向けの業務を任意団体として行なっています。本年4月からは、長くにわたって事務局をお借りし、依存してきた横浜市総合リハビリテーションセンターからの自立も、まだまだ不完全ではありますが果たすことができました。会員の皆様のご理解とご支援の賜物と感謝しております。しかし、一方では任意団体と一般社団法人という二重の構造になっているため、財務担当理事や総務担当理事および事務局にはより一層の負担をかけてしまっています。この二重構造は暫定的なものであり、対社会的にも早期の完全法人化が必要と考えています。

昨年秋には韓国リハビリテーション工学協会（RESKO）と協力協定を締結し、徳島アグリーメントのメンバー（RESNA、AAATE、ARATA、RESJA）と同等の互恵関係となりました。また、台湾ではTREATS（Taiwan Rehabilitation Engineering & Assistive Technology Society）が組織され、6月2日に第1回年次大会が開催され、RESNAとRESJAが基調講演者として招待されました。シンガポールでは7月にi-CREATE（International Convention on Rehabilitation Engineering and Assistive Technology）が開催され、当協会員は参加費減免という恩恵を受けました。アジアの各地は経済的に目覚ましい発展を遂げつつあり、その成果が障害のある人の生活向上に振り向けられなくてはなりません。我々の経験を伝え、互恵の関係を深めていくことは、公益性の高い事業であるとともに、我々を支援いただいている関連企業の皆様に対しても利益となることと思ひています。

会長 相良二朗

1. 社員・会員

1-1. 法人社員・会員

2011年7月1日 社員（正会員）36名、学生会員26名、賛助会員数23社（83口）
2012年6月30日 社員（正会員）36名、学生会員18名、賛助会員数24社（86口）

1-2. 任意団体会員

2011年7月1日 個人会員873名（内学生会員26名）、賛助会員数0社（0口）
2012年6月30日 個人会員885名（内学生会員18名）、賛助会員数0社（0口）

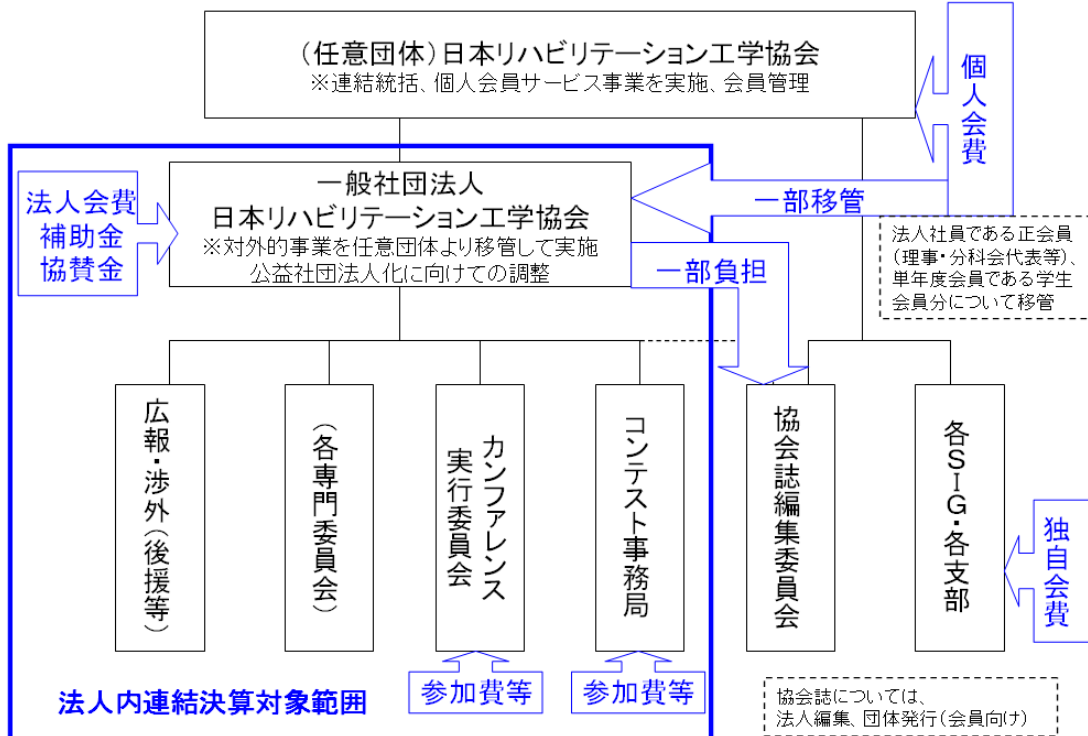
2. 事業

本協会の主たる事業は、リハ工学カンファレンスの開催、福祉機器コンテストの実施、協会誌の発行、SIG活動及び委員会活動である。以下に、各事業の2011年度の活動を報告する。

2011年度は当初より、任意団体と一般社団法人の2つの日本リハビリテーション工学協会が存在している。このため事業は分担して（一部の事業が任意団体として）実施した。任意団体としての事業は、以下の資料においては「団体にて実施」と表記する。

2011年度の組織・事業主体

任意団体の総会では、従来と同様に法人事業(移管事業)を含む全体が審議対象



2-1. リハ工学カンファレンス関連 (担当理事：巴雅人)

1) 第26回リハ工学カンファレンス(大阪)の開催

テーマを「リハ工学 なにわ 夏の陣：ものづくり 暮らしQOL、大阪から世界へ」と題して第26回リハ工学カンファレンスを大阪市中央公会堂において、上好昭孝氏(大阪河崎リハビリテーション大学)を大会長として2011(平成23)年8月24日(水)～26日(金)に開催した。

会員・協賛団体、障害当事者、学生、リハ工学技術者及び研究者、医療専門職、社会福祉・教育・企業関係者が参加した。3日間の参加者はスタッフを含み合計で632名(内、有料参加者363名、下記参照)であった。

参加種別	協会員 協賛団体	非協会員		学生	認定 講座	合計
		全日参加	1日参加			
第26回(大阪)	259名	39名	43名	21名	1名	363名

口頭発表は、29セッション、119演題(内、国際セッション3、11演題含む)、インタラクティブセッションは23演題、イブニング・モーニングセッションは13セッション、SIG合同セッションは5セッションを実施した。

特別プログラムでは、基調講演として「遠隔操作型アンドロイドの未来 Studies on Teleoperated Androids」(講演者：石黒浩氏、座長：井上剛伸氏)、パネルディスカッション「あいのリハ工」(パネラー：吉村龍彦氏、小西治子氏、首藤友美氏、石川牧男氏、林勲氏、彦坂明宏氏、コーディネーター：吉田正樹氏、松田靖史氏)、大会長講演「オプティマルヘルスを目指して(ロコモ対策としてのサルコペニア)」(講演者：上好昭孝氏、座長：吉田正樹氏)、特別講演「障害者制度改革とリハ工学への期待」(講演者：尾上浩司氏、座長：古井透氏)を行った。

特別企画プログラムとして、国際セッション招待講演（大阪電気通信大学協賛）

「Assistive Technology: How it impacts the community, improving QOL and changing society's attitudes towards disability.」（講演者：ローリー・クーパー氏、逐次通訳：羽佐田和之氏、座長：古井透氏）、当事者セッション（一般公開）「東日本大震災への障害者被災の実態と支援活動および障害者当事者派遣プロジェクトについて」（発表者：八幡隆司氏、佐藤聡氏、藤原勝也氏、座長：巴雅人氏）、単位認定講座「リハビリテーションにおける運動と工学の必要性」（講演者：田島文博氏、座長：上好昭孝氏）を行った。

その他、総会、機器展示（参加企業・団体 27 社）、福祉機器コンテスト 2011 の最終選考会ならびに一次選考通過作品の展示、懇親会を実施した。

2) 第 27 回リハ工学カンファレンス（福岡）実行委員長との覚書締結と、開催準備を行った。

3) 今後のカンファレンスへの取り組み

第 28 回以降のリハ工学カンファレンス開催について、候補地の協会員に開催に向けての説明と依頼を行った。

2-2. 福祉機器コンテスト関連（担当理事：元田英一）

1) 福祉機器コンテスト 2011 の実施

応募総数は 69 件であった（機器開発部門 39 件、学生部門 30 件）。

・ 第 1 次選考会：2011 年 7 月 16 日（土）応募作品の書類・ビデオ審査（於：横浜市総合リハビリテーションセンター（横浜））

・ 第 2 次選考会：2011 年 8 月 25 日（木）機器開発部門：プレゼンテーション審査、学生部門：書類・ビデオ審査（於：大阪市中央公会堂、第 26 回リハ工学カンファレンス会場（大阪））

機器開発部門：最優秀賞 1 件、優秀賞 2 件

学生部門：最優秀賞 1 件、優秀賞 2 件

・ 発表および表彰：2011 年 10 月 7 日（金）（於：第 38 回国際福祉機器展（HCR2011）会場内（東京））

・ 展示および広報

➤ 第 38 回国際福祉機器展（HCR2011）（東京） 2011 年 10 月 5 日（水）～10 月 7 日（金）（表彰式／受賞作品の実物展示）

➤ 第 13 回西日本国際福祉機器展（PPC2011）（北九州） 2011 年 11 月 18 日（金）～20 日（日）（受賞作品の実物展示）

2) 福祉機器コンテスト 2012 の準備および実施

・ 福祉機器コンテスト 2012 選考委員会の設置（2012 年 4 月 1 日～）

・ 応募の受付

➤ 募集対象：機器開発部門、学生部門

➤ 広報開始・応募要綱配布：4 月 19 日

➤ 募集期間：機器開発部門 5 月 1 日～6 月 11 日

学生部門 5 月 1 日～7 月 9 日

・ 展示および広報

➤ バリアフリー 2012（大阪）展示会（広報） 2012 年 4 月 19 日（木）～21 日（土）

3) コンテスト発展のための取り組み

・ コンテストの会計年度を 3 月 1 日～2 月末日に変更した。

・ 協賛企業の確保に向け、協賛企業の特典を明確にした。

・ コンテスト応募作品（受賞作品を含む）のデータベース化を検討する。

2-3. 協会誌関連（発行は団体にて実施）（担当理事：岩崎満男・高原光恵）

1) 協会誌発刊：以下の4号（各1000部印刷）を発刊した。

Vol.26 No.3 2011/8 特集「検証—介護保険制度における福祉用具と住宅改修の10年—
—現状と今後の課題—」

Vol.26 No.4 2011/11 特集 「安心で安全な移乗」

Vol.27 No.1 2012/2 特集 「これからの自立支援機器に求めること—頸損解体新書実
態調査から見えてきたもの—」

Vol.27 No.2 2012/5 特集 「道具でひろがる世界」

2) 編集委員会の開催

横浜市総合リハビリテーションセンターにて、発行にあわせ4回開催した。

3) 投稿論文掲載

- ・ 2011年度、投稿13件（研究論文4、ショートペーパー1件、研究報告3、資料1、意見3、その他1）あった。Vol.27 No.1に1件（研究論文）掲載となった。これは前年度（2010年度）受付分の投稿1件（研究論文1）である。
- ・ 公益法人化のために、協会誌への投稿増加施策として座長推薦を第26回カンファレンス（大阪）にて実施した。推薦投稿のお願いの結果、投稿予定は8件である。

4) その他

- ・ 新編集委員を募り、決定した。
- ・ 協会誌関連の規定整備作業を進めた。

2-4. 分科会・専門委員会（担当理事：高原光恵・岩崎満男）

- ・ 第26回リハ工学カンファレンス（大阪）における一般演題座長選出、委嘱状依頼を行なった。
- ・ 第26回リハ工学カンファレンス（大阪）にて、分科会・専門委員会代表者会議を開催した。
- ・ 各分科会が開催する講習会の開催や、国際福祉機器展（HCR）等展示会におけるSIGのPR活動を支援した。
- ・ 各SIGの登録正会員数を把握し、SIG助成金支給規程に基づき助成金を支出した。
- ・ 乗り物SIG、自助具SIGの活動活性化に向け、各準備委員会における活動を支援した。
- ・ リハ工学啓発のために、他団体へ講師派遣、機材貸出等の支援を行なった。

1) SIG活動（団体にて実施）

※ 参考 各SIG活動状況（会員数は2011年7月1日の人数（ ）内は協会員数を示す）

SIG 姿勢保持 （会員数351名(57名)）	SIG 助成金支給額：42,205円
代表者：繁成 剛(東洋大学)	事務局長：中村詩子(北九州市立総合療育センター)
・ 講習会開催：2011年8月27日 森ノ宮医療大学(大阪市住之江区)	
・ HCR2011：2011年10月5日出展社ワークショップ参加『近年の姿勢保持』東京ビッグサイト(東京都江東区)	
・ PPC2011：2011年11月19日出展社ミニセミナー参加「すぐわかる！高齢者が姿勢良く座るコツ」(福岡県北九州市)	
・ セミナー開催 2012年6月30日 東洋大学朝霞キャンパス(埼玉県朝霞市)	
・ 書籍(車いす・シーティング用語集)や資料集PDF版の販売	
車いすSIG （会員数202名(89名)）	SIG 助成金支給額：50,000円
代表者：松尾清美(佐賀大学)	事務局長：沖川悦三(神奈川県総合リハビリテーションセンター)
・ 講習会開催：2011年8月22・23日 株式会社ニチイ学館(神戸市)参加者数145名	
・ 講習会開催：2012年1月28・29日 高知県立ふくし交流プラザ(高知市)参加者数77名	
・ WEBサイト運営、テキスト発行(年2回)、分科会(BOG)活動、東日本大震災復興支援 他	
自助具SIG （会員数報告なし）	SIG 助成金支給額：20,000円
代表者：岡田英志(ヒューマン)	事務局長：岡田英志(ヒューマン)
・ 自助具SIG立ち上げイベントin大阪	

乗り物SIG (会員数報告なし) SIG 助成金支給額: 20,000 円 代表者: 岩崎満男 (国際医療福祉大学大学院) 事務局長: 松尾清美 (佐賀大学) ・障害者・高齢者のモビリティに関する情報交換会の企画 ・移動機器フェスティバル(神奈川リハ)への協力
SIG 褥そう防止装置 (会員数48名(21名)) SIG 助成金支給額: 26,745円 代表者: 廣瀬秀行(国立リハセンター研究所) 事務局長: 河合俊宏(埼玉県総合リハビリテーションセンター) ・RESJA2011: イブニングセッション: 褥そう防止装置とは (2011年8月) ・HCR2011: ワークショップ協力 (2011年9月)
コミュニケーションSIG (会員数68名(48名)) SIG 助成金支給額: 40,000円 代表者: 渡辺 崇史 (日本福祉大学) 事務局長: 上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター) 講習会: 「コミュニケーションSIG講習会 in 大阪」 森之宮医療大学 参加者27名 共催: 「コミュニケーション支援技術講習会」(横浜リハセンター) 神奈川県OT士会主催 参加者30名 ミニセミナー 「最近のコミュニケーション機器の状況」 「ボウリングゲーム用オートスロープについて」西日本国際福祉機器展会場
SIG 住まいづくり (会員数101名(58名)) SIG 助成金支給額: 43,110円 代表者: 橋本美芽 (首都大学東京) 事務局長: 西村顕(横浜市総合リハビリテーションセンター) ・イブニングSIGセッションの開催 ・ホームページやメーリングリストによる情報伝達 ・東日本大震災支援活動 ・代表の交代、事務局の移転、SIGミーティングの開催
特別支援教育SIG (会員数5名(5名)) SIG 助成金支給額: 21,915円 代表者: 松田靖史 (川村義肢株式会社) 事務局長: 高原光恵(鳴門教育大学) ・教育の場での支援機器活用・作成に関する情報交換会開催 (2011年8月) ・ネットワークを使った会員間での情報交換
移乗機器SIG (会員数81名(22名)) SIG 助成金支給額: 25,370円 代表者: 古田恒輔 (神戸学院大学) 事務局長: 加島 守(高齢者生活福祉研究所) ・講習会の開催: 2011年6月4～5日「移乗機器SIG講習会2011 in KOBE」(神戸市) ・2012年4月19～21日バリアフリー展(モリトブース) 移乗用具の解説とデモンストレーション ・2012年6月14～15日日本作業療法士学会(モリトブース) ミニセミナー(移乗用具の解説、デモ)
義肢装具SIG (会員数189名(40名)) SIG 助成金支給額: 37,330円 代表者: 早川康之 (北海道工業大学) 事務局長: 砂野義信 ・講習会開催: 2011年8月26～28日『チャレンジ!義肢装具』川村義肢株式会社(大阪府大東市) ・HCR2011: 2011年10月5日出展社ワークショップ『凄いぞ!義足!!』東京ビッグサイト(東京都江東区) ・西日本国際福祉機器展: 2011年11月20日リハビリテーション工学ミニセミナー 『下腿義足についての解説とデモンストレーション』西日本総合展示場(福岡県北九州市)

(注)各 SIG から表記以外多数の活動報告を受けましたが、紙面の都合上割愛させて頂いたことをご了承下さい。詳しくは2012年度事業計画(案)に記した各SIG のホームページ等をご覧ください。

2) 支部活動(団体にて実施)

- ・九州支部設立に向けて検討を行い、第27回カンファレンス(福岡)終了後に設立のための具体的支援についての相談を行う計画を立てた。

3) 専門委員会

- ・東日本大震災復興支援に関する専門委員会として、支援活動の継続ならびに開拓を行った。引き続きみちのく補助器具ネットに参加し、厚生労働省のアドバイスを受け、情報収集をした。また被災地の視察を行い、支援方法を模索した。宮城県リハビリテーション支援センターからの支援協力依頼による、名取市仮設住宅箱塚桜団地での仮設住宅浴室内段差解消作業等を実施した。

(注)別途、詳細な活動報告を受けましたが、紙面の都合上割愛させて頂いたことをご了承下さい。

2-5. 企画推進事業(担当理事:川村慶・金井謙介)

1) 学会/展示会、広報活動の強化

下記展示会等にブース出展し、広報に努め、リーフレットを継続して配布した。

- ・第38回国際福祉機器展(HCR2011)(2011年10月5日～10月7日 於:東京ビッグ

サイト（東京）

- ・第13回西日本国際福祉機器展(PPC2011) (2011年11月18日～20日 於：西日本総合展示場新館（北九州）)
- ・バリアフリー2012 (2012年4月19日～21日 於：インテックス大阪（大阪）)

2) 第38回国際福祉機器展(HCR2011)での出展社セミナー・ワークショップの開催
(担当理事：川村慶)

第38回国際福祉機器展(2011年10月5日～10月7日 於：東京ビッグサイト(東京))において、セミナーを開催し、リハ工学協会の広報を行った。今年は出展者セミナーとして『支援技術の可能性=Q.O.L.向上について学ぼう=』(講師：各SIG)を10/5に行った。

3) 第13回西日本国際福祉機器展(PPC2011)セミナーの開催

第13回西日本国際福祉機器展(2011年11月18日～20日 於：西日本総合展示場(新館)(北九州))の展示会にブース出展とあわせ、基礎セミナー『リハビリテーション工学基礎セミナー6』を行った。内容は、「リハ工学ディスカッション～リハビリテーション工学への期待～」(講師：小林博光氏)を福岡大会のプレカンファレンスとして実施し、また「体感実習！その人に合った車いす。その人が選ぶくらし」(講師：小林博光氏)の表題で基礎技術セミナーも行った。

4) バリアフリー2012でのワークショップ開催

バリアフリー2012にて震災関係のワークショップを開催した。

日時等：4月21日 土曜日 15:00～16:00 インテックス大阪

テーマ：「東日本大震災に学ぶ」我々が今できる支援(ヒト・モノ・カネの視点から)

演者：相良二朗会長

内容：東日本大震災から一年。復興支援のカタチもキモチも大きく変化した。一年間どのような支援があり、これからどのような支援が我々にできるのか？今後どのように東北と関わることができるのか？偏った情報により被災地に求められている「もの」や「こと」は、我々とギャップがあるため、東北の方々に学ぶ、という視点で今一度考え直す場としたい。

2-6. 国際関連の事業(担当理事：大鍋寿一)(一部は団体にて実施)

- ・第23回リハ工学カンファレンス(新潟)の英語本をRESJA、RESNA、AAATE、RESKO、CSUNカンファレンス(事務局)及び国会図書館、日本生活支援工学会、日本機械学会(福祉工学シンポジウム)、ライフサポート協会へ送付した。ARATAに関しては連絡が取れていないが、近々に送付予定である。
- ・RESKOカンファレンス2011において、RESKOとの間にRESJAは協力協定を締結した。
- ・2012年度以降の国際カンファレンス(下記)へ向け道筋をつけた。
 - RESKOカンファレンス
 - CSUNカンファレンス
- ・リハ工学カンファレンスの開催案内をConcertation Meeting Groupの国際会議開催案内に、2012年3月より掲載されることになった。
- ・2012 TREATS Annual Meeting(台湾リハ工学カンファレンス)において、RESJA関連プロジェクトに関する部分の支援を行った

3. 総務

3-1. 会則(担当理事：鈴木聖貴)

協会の完全法人化に向けて、新定款(案)をまとめた。

3-2. 法人化（担当理事：鈴木聖貴）

- ・ 法人との完全移行に向けて、代議員制度導入による、代議員選挙規則と役員選挙規則（予定）をまとめた。
- ・ 公益認定申請に向けて、理事会内で議論した結果、2012年8月31日（金）をもって任意団体を解散する。9月1日（土）から事業・財務管理体制などの整理・財産の清算を行い、2012年12月31日（月）残余財産を確定して法人に贈与し、完全法人化することが了承された。

3-3. 財務（担当理事：飯島浩）

2012年度の法人化体制整備のため、財務会計業務強化を目的として公認会計事務所と契約締結し、今年度内に法人化に適切な財務会計事務を実施するための基盤整備を行った。

3-4. 総会・理事会等会議開催（担当理事：塚田敦史）

総会、理事会について下記の通り行った。

1) 2011年度定時社員総会の開催

- ・ 日時：2011(平成23)年8月24日（水） 11:00～11:45
- ・ 場所：大阪中央公会堂（第26回リハ工学カンファレンス（大阪）会場）

2) 2011年度任意団体総会の開催（団体にて実施）

- ・ 日時：2011(平成23)年8月26日（金） 12:40～13:40
- ・ 場所：大阪中央公会堂（第26回リハ工学カンファレンス（大阪）会場）

3) 2011年度第1回（通算第3回）～第6回（通算第8回）（法人）理事会の開催

7/10、8/24（第26回リハ工学カンファレンス（大阪）会期中）、8/26（第26回リハ工学カンファレンス（大阪）会期中）、11/13、3/11に開催した。この他、電磁的手段（メール）による第5回（通算第7回）の理事会を開催した（審議（質疑）期間：2/2～2/8、採決期間：2/8～2/13）。これは、理事の専権行使のできない審議事項が生じ、定款第41条（決議の省略）を適用して第5回法人理事会として開催したものである。

4) 第123回～第126回（任意団体）理事会の開催

7/10、8/26（第26回リハ工学カンファレンス（大阪）会期中）、11/13、3/11の4回開催した。

5) 電子メールによる会議

任意団体理事会毎の議事録承認（4回）、任意団体の審議事項の承認（1回）、新入会員の承認（適宜）について協議、審議し採決を行った。また各担当理事専権事項（法人）について協議の上、発効宣言がなされた。その他の検討事項についても、積極的に意見交換が行われた。

3-5. 広報・渉外（担当理事：古井透）

2010年度に取り組んだ社団法人日本作業療法士協会との連携は、問い合わせの段階だが、折衝を継続している。

4. 事務局（担当理事：沖川悦三）

1) ホームページの運営管理

ホームページの運営に関する理事会内の流れについて再整理し、法人化後の運営管理について検討した。

2) メールニュース

月1回以上を原則とし23通の配信をおこなった。

3) 後援・協賛事業（主催団体と内容）

2011年7月1日～2012年6月30日までは、以下の事業の後援・協賛を行った。

No.		団体名	開催日程	内容
1	後援	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団	2011/7/22～23	ヨコハマ・ヒューマン&テクノロジーランド2011～福祉を支える人とテクノロジーの総合展～
2	協賛	バイオメカニズム学会	2011/7/26～28	第22回バイオメカニズムシンポジウム
3	後援	一般社団法人日本福祉のまちづくり学会	2011/8/27～29	日本福祉のまちづくり学会 第14回全国大会
4	後援	バイオフィリア リハビリテーション学会	2011/8/27～28	第15回バイオフィリア リハビリテーション学会
5	協賛	NPOヒューマンインタフェース学会	2011/9/13～16	ヒューマンインタフェースシンポジウム2011
6	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2011/9/20～22	第26回生体・生理工学シンポジウム
7	後援	ウォーク&ランフェスタ実行委員会(一般社団法人ナンフェス)	2011/9/25	ウォーク&ランフェスタ～難病と取り組む仲間とともに響け！1万人の鼓動～
8	協賛	西日本国際福祉機器展実行委員会	2011/11/18～20	PPC2011第13回西日本国際福祉機器展
9	協賛	バイオメカニズム学会	2011/11/26～27	第32回バイオメカニズム学術講演会
10	協賛	感覚代行研究会	2011/12/5～6	第37回(2011年)感覚代行シンポジウム
11	協賛	一般社団法人日本人間工学会	2011/12/10～11	日本人間工学会 関東支部第41回大会
12	協賛	公益社団法人計測自動制御学会システムインテグレーション部門	2011/12/23～25	第12回SICEシステムインテグレーション部門講演会
13	後援	財団法人神奈川科学技術アカデミー	2012/1/30～31	平成23年度KAST教育講座「医療機器の強度評価シミュレーションの基礎と応用」
14	共催	「重度障害者意思伝達装置の支給と利用支援を包括するコミュニケーション総合支援施策の確立に関する研究」班	2012/2/17	シンポジウム「『重度障害者用意思伝達装置』の導入と支援のために」
15	協賛	日本建築学会 建築計画委員会 ノーマライゼーション環境小委員会	2012/2/18	ノーマライゼーション環境小委員会 平成23年度公開研究会
16	後援	日本チェアスキー協会	2012/2/23～26	第33回日本チェアスキー大会ーみんなのすきーきょうしつー
17	協賛	特定非営利活動法人モバイル学会	2012/3/15～16	シンポジウム「モバイル12」
18	協賛	一般社団法人日本人間工学会	2012/6/9～10	日本人間工学会 第53回大会

5. その他

- 1) 平成 23 年度福祉用具・介護ロボット実用化支援事業検討委員会委員就任（相良会長（理事長））

厚生労働省が公益認定財団法人テクノエイド協会に委託した事業において、検討委員会への就任を依頼された。1月と3月の2回会議が開催され、3月の会議に出席し意見を述べた。報告書は厚生労働省から5月に発行され、事務局にて保管されている。

- 2) 平成 24 年度福祉用具・介護ロボット実用化支援事業検討委員会委員就任（相良会長（理事長））

平成 23 年度に引き続き、公益認定法人テクノエイド協会が受託した事業において、検討委員会への就任を依頼された。

- 3) 1st Taiwan Rehabilitation Engineering and Assistive Technology Society (TREATS) Annual Meeting への参加（相良会長（理事長））

台湾復健工程義輔具科技学会 (TREATS) からの招待を受け、第一回年次大会へ参加し、基調講演者として RESJA の紹介を行った。合わせて、国立成功大学及び国立台湾大学にてセミナーが開催され講演を行った。

- 4) 地域ケアリングあの人にインタビュー欄への掲載（6月号）（相良会長（理事長））

株式会社北隆館発行の雑誌の巻頭インタビュー記事への掲載を依頼され、3月11日にインタビューを受け、5月発売の6月号に掲載された